

小集会プログラム 3月27日(金) 17:30-19:00

A会場	B会場	C会場	E会場	F会場
<p>W01: 第45回ハダニ 談話会世話人: 岸 本英成・後藤哲雄</p>	<p>W02: 深化する化学 生態学: 情報化学 物質と害虫防除の 過去・現在・未来 世話人: 上原拓也・ 大村 尚・小野 肇・ 小野正人・今野浩太 郎・櫻井健志・外山 晶敏・中 秀司・藤井 毅・森 直樹</p>	<p>W03: 害虫・雑草管 理における景観生 態学的アプローチ 世話人: 田淵 研</p>	<p>W04: 新規生物農薬アカメガシワクダアザミ ウマの効果的な利用法 ―イチゴにおける アザミウマ防除の事例紹介― 世話人: 森 光太郎</p>	<p>W05: 国立環境研究 所侵入生物研究チ ームにおける実践生 態学の歩み 世話人: 笠井 敦・坂 本佳子</p>
<p>W011 須藤 正彬(農環研) 植物ダニにおける 葉の上下面の使い 分けとその生態学 的意義</p> <p>W012 松田 朋子(茨城大・ 農・応動昆) DNA塩基配列に基づ くハダニ類の種の 識別と系統関係の 推定</p>	<p>W021 本田 洋(筑波大生命 環境) モモゴマとともに 27年-バイオシステ マティクスと化学 生態学</p> <p>W022 安藤 哲(農工大 BASE) フェロモンの生合 成はまだまだおもしろい</p> <p>W023 西田 律夫(京都大院 農) 昆虫と植物をつな ぐ化学因子: 害虫 ミバエ類の誘引戦 略を中心として</p>	<p>W031 ○田淵 研¹・滝 久智 ²(農研機構東北農 研¹・森林総研²) 趣旨説明: 害虫・ 雑草管理における 景観生態学的アプ ローチ</p> <p>W032 仲島 義貴(京大・生 態研センター) 土地利用情報に基 づく環境診断: 害 虫と天敵のモニタ リング技術への応 用</p> <p>W033 ○馬場 友希・田中 幸一((独)農環研) 農地景観が土着天 敵類におよぼす影 響: 多様な結果か ら次の一手を探る</p> <p>W034 市原 実(静岡農林 研) 水田の種子食昆虫 による雑草抑制機 能: 圃場周辺環境 の重要性</p>	<p>W041 大朝 真喜子(石原産業・中央研究所) 新規生物農薬アカメガシワクダアザミウマ の開発と生物学的特性</p> <p>W042 ○松崎 正典・中野 昭雄・秋月 学・松尾 和典 (徳島農総技セ) 冬春・夏秋イチゴ栽培でのアカメガシワク ダアザミウマの利用に向けて (徳島県)</p> <p>W043 ○藤田 一平¹・安井 行雄¹・渡邊 丈夫²(香川大・ 農・昆虫¹・香川農試²) イチゴ栽培でのアカメガシワクダアザミウ マと乱反射資材併用衝立式ネットを利用し た春のアザミウマ類侵入量急増時の防除対 策(香川県)</p> <p>W044 新藤 潤一(青森産技セ・野菜研) 夏秋イチゴ栽培におけるアカメガシワクダ アザミウマの利用法</p> <p>W045 ○安達 鉄矢¹・下元 満喜¹・大朝 真喜子²・竹村 浩一郎³・中山 俊弘⁴(高知農技セ¹・石原産業中 央研究所²・高知須崎農振セ³・高知須崎農振セ 高南農改⁴) 冬春イチゴ栽培でのアカメガシワクダアザ ミウマの利用法 (高知県)</p>	<p>W051 五箇 公一(国立環境 研) 研究者として世の役 に立つ〜応用科学を 目指す若き研究者へ のメッセージ</p> <p>W052 土田 浩治(岐阜大応 用生物) 平取町から始まった 侵入生物とのお付き 合い: マルハナバチ プロジェクトの思い 出</p> <p>W053 柏田 祥策(東洋大) 化学物質生態リス ク評価の展望</p> <p>W054 立田 晴記(琉球大・ 農) クワガタと環境研と 私</p> <p>W055 辻 和希(琉球大学・ 農) 応用生態学研究への 期待</p>

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場
W06：複合共生系をひも解く 世話人：菊池義智・藤原亜希子	W07：殺虫剤作用機構談話会 世話人：園田昌司・山本敦司・水口智江可	W08：第21回日本ICIPE協会研究報告会 世話人：足達太郎	W09：ゲノムからみた昆虫の複合適応形質の進化 世話人：嶋田透・深津武馬	W10：温故知新・昆虫生態学の先輩から学ぶ（3） 巖俊一先輩と愉快的仲間 世話人：安田弘法	W11：アリをめぐる生物種間の相互作用 2015 (JIUSSI共催) 世話人：秋野順治・坂本洋典・萩原康夫
W061 ○藤原 亜希子 ^{1,2} ・倉田 歩 ³ ・前田 太郎 ⁴ ・重信 秀治 ⁴ ・孟 憲英 ⁵ ・鎌形 洋一 ⁵ ・土田 努 ¹ (富山大・先端1・日本学術振興会PD ² ・富山大院・理工 ³ ・基生研・生物機能 ⁴ ・産総研・生物プロセス ⁵) ひと味違う！？ タバココナジラミにおけるユニークな複合共生システム	W071 ○岡崎 真一郎 ¹ ・松浦 明 ² ・土田 聡 ³ ・園田 昌司 ⁴ (大分農林水産研農業 ¹ ・宮崎総農試 ² ・農研機構果樹研究所 ³ ・岡山大・植物研 ⁴) 大分県の夏秋ピーマンにおけるスピノサド抵抗性ミカンキイロアザミウマとネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの発生実態と防除対策の取り組み	W081 中村 達(国際農研) 東アフリカにおけるサバクトビバッタの研究：ICIPEの役割 W082 前野 浩太郎(京大 大白眉センター) サバクトビバッタの群生相化と大発生	W091 松村 洋子(キール大学・生物学部) 交尾器の伸長現象：ハムシ科(昆虫綱：甲虫目)を例に W092 ○森山 実 ^{1,2} ・細川 貴弘 ³ ・二河 成男 ⁴ ・深津 武馬 ¹ (産総研・生物プロセス ¹ ・学振PD ² ・九大・理 ³ ・放送大・教養 ⁴) 昆虫の植物利用能を変える共生細菌の遺伝子 W093 棚橋 薫彦(産業技術総合研究所・学振PD) 実は奥深いクワガタムシと酵母の共生関係～形態、行動、分子からゲノムまで	W101 鈴木 紀之 ¹ ・○安田 弘法 ² ・金子 修治 ³ (立正大1・山形大 ² ・静岡伊豆研 ³) 温故知新・昆虫生態学の大先輩から学ぶ（3） 巖俊一大先輩と愉快的仲間達 W102 大崎 直太(山形大学) 巖俊一先生と野外生態学 W103 沢田 裕一(滋賀県大) オオニジュウヤホシテントウ群の研究と巖先生の人柄 W104 西田 隆義(滋賀県立大環境科学) 巖俊一の生態学：理論的側面について W105 山田 佳廣(三重大院・生物資源) 巖が目指したもの：野外で密度に対する反応をどのように検出するか	W111 水野 尊文(京工繊大院) 真社会性昆虫と関わる昆虫の化学戦術 アリを操るシジミチョウ・ハチを欺くカマキリ W112 林 正幸(千葉大・応用昆虫) アリのアブラムシ認識機構とそれを利用したアブラムシ捕食者の対アリ戦略
W062 古賀 隆一(産総研・生物プロセス) アワフキムシの細胞内共生系	W072 ○山中 武彦 ¹ ・須藤 正彬 ¹ ・高橋 大輔 ¹ ・鈴木 芳人 ² (農環研1・京都市 ²) 進化生態学的アプローチから薬剤抵抗性管理を考える				
W063 東樹 宏和(京大・人環) 次世代シーケンスデータで相互作用ネットワークを描く					

小集会プログラム 3月 28日 (金) 14:30-16:00

A会場	E会場	G会場	I会場	J会場	L会場
<p>W12: Morphometrics as a tool for insect shape analysis 世話人: 立田晴記</p>	<p>W13: ネオニコチノイド農薬の陸域昆虫類に対する影響の評価 世話人: 中牟田 潔・五箇公一</p>	<p>W14: 光のエントモミメティクス: 構造色と視覚の模倣 世話人: 高梨琢磨・森 直樹</p>	<p>W15: 捕食寄生性昆虫の行動生態学最前線 世話人: 中村 達・戒能洋一</p>	<p>W16: 大害虫ケブカアカチャコガネがつないだ人と研究 世話人: 永山敦士・安居拓恵</p>	<p>W17: 害虫発生子 察 一時的予測から量的予測に進化するために一 世話人: 南島 誠・八瀬 順也</p>
<p>W121 Chris Klingenberg (Univ. Manchester) Geometric morphometrics: theory, study designs and applications</p> <p>W122 小沼 順二 (Dept. Bio., Toho Univ.) Morphometrics and quantitative genetic analyses in the morphology of a snail-feeding carabid beetle</p> <p>W123 ○橋本 佳明¹・遠藤 知二²・市岡 孝朗³・兵藤 不二夫⁴・山崎 健史⁵(University of Hyogo¹・Kobe college²・Kyoto University³・Okayama University⁴・Tokyo Metropolitan University⁵) Through the Looking-Glass: reflection of ant-diversity in ant-mimics</p> <p>W124 高橋 一男 (Okayama University) Morphometrics as a tool for insect shape analysis</p>	<p>W131 ○相澤 章仁・野村 昌史・中牟田 潔 (千葉大・院・園芸学) 陸域昆虫類におけるネオニコチノイド系農薬感受性の種間差</p> <p>W132 ○笠井 敦・林 岳彦・五箇 公一 (国立環境研) 野生マルハナバチ類に対する残留ネオニコチノイドの影響</p> <p>W133 ○安田 美香¹・坂本 佳子²・滝 久智¹・永光 輝義¹ (森林総研¹・国環研²) ニホンミツバチへの農薬の影響</p>	<p>W141 ○不動寺 浩¹・針山 孝彦²・山濱 由美²・吉岡 伸也³・石井 大佑⁴・木村 賢一⁵・久保 英夫⁶・下村 政嗣⁷・魚津 吉弘⁸ (物質・材料研究機構¹・浜松医科大²・大阪大学³・名古屋工大⁴・北海道教育大⁵・北海道大学⁶・千歳科学技術大学⁷・三菱レイヨン⁸) バイオミメティックによる構造色を模倣した人工タマムシ</p> <p>W142 ○弘中 満太郎・針山 孝彦 (浜松医大・生物) 昆虫の視覚世界を規範とした高性能な害虫誘引・隠蔽技術</p>	<p>W151 Wajnberg Eric (INRA, France) Biological control practices in the occidental world: Situation and future developments</p> <p>W152 竹本 裕之 (静岡大・グリーン研) 環境保全型生物的防除に関わる寄生蜂の探索キューに対する“非” 特異的な応答</p> <p>W153 高須賀 圭三 (神戸大・農・昆虫多様性) 寄生蜂の延長された表現型 一クモの寄生蜂が寄主クモの造網行動をあやつる</p>	<p>W161 新垣 則雄 (沖縄農研) 性フェロモンを利用した交信かく乱法によるケブカアカチャコガネの防除</p> <p>W162 若村 定男 (京都学園大学) ケブカアカチャコガネの性フェロモン成分の解明</p> <p>W163 田中 誠二 (農生研) ケブカアカチャコガネの休眠と配偶行動</p>	<p>W171 ○武田 藍¹²・安田 美香⁵・安田 哲也³・平江 雅宏³・望月 文昭⁴ (千葉農林総研セ¹・千葉大院園芸²・中央農研³・信越化学⁴・森林総研⁵) 千葉県におけるアカスジカスミカメ被害解析</p> <p>W172 ○田淵 研¹・奥寺 繁¹・穴戸 貴洋²・高橋 良知³ (農研機構 東北農研¹・岩手防除所²・秋田農試³) 土地利用情報から斑点米カメムシ類の発生量を推定する</p>